

令和元年 8 月 7 日
於
府中市役所

令和元年第 3 回

府中市教育委員会臨時会議事録

府中市教育委員会

令和元年第3回府中市教育委員会臨時会議事録

- 1 開 会 令和元年8月7日(水)
午後1時30分
閉 会 令和元年8月7日(水)
午後3時51分
- 2 議事録署名員
教育長 浅 沼 昭 夫
委 員 日 野 佳 昭
- 3 出席者
教育長 浅 沼 昭 夫 委 員 松 田 努
委 員 日 野 佳 昭 委 員 平 原 保
委 員 新 島 香
- 4 欠席者
な し
- 5 出席説明員
教育部長 赤 岩 直
教育部副参事兼指導室長
並 木 茂 男
教育総務課長 佐々木 和 哉
教育総務課長補佐 遠 藤 公巳明
指導室長補佐 鈴 木 正 憲
統括指導主事 田 村 貴代美
- 6 教育委員会事務局出席者
教育総務課係長 矢 島 彩 子
教育総務課主任 元 村 考 呂

議 事 日 程

第1 議事録署名員指名について

第2 会期決定について

第3 協 議

- (1) 教科用図書（小学校）の採択候補の選定について
- (2) 教科用図書（中学校）の採択候補の選定について
- (3) 教科用図書（特別支援学級）の採択候補の選定について

第4 その他

午後1時30分開会

○教育長（浅沼昭夫君） ただいまより、令和元年第3回府中市教育委員会臨時会を開会いたします。

◇

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第1、議事録署名員指名につきまして、本日の議事録署名員は、私のほか日野委員にお願いいたします。

◇

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第2、会期の決定でございますけれども、会期は本日1日といたします。

◇

○教育長（浅沼昭夫君） 本日は協議事項が3件ございます。これらは次回の教育委員会定例会において議案として審議予定の、教科書採択の選定協議に係る案件であるため、非公開としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） なお、本日の会議録は、教育委員会において教科書採択が審議・決定されるまでの間は非公開とし、採択のあった日以降、採択の経過が分かるように速やかに公開するものとします。

◇

◎教科用図書（小学校）の採択候補の選定について

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、日程第3、協議（1）につきまして、種目ごとに確認をしていきます。説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 令和2年度使用教科用図書採択における、小学校用教科書についてご説明いたします。

令和2年度使用教科用図書採択要綱第4条第1号に則り、全11教科において各教科に精通した市内小学校の管理職及び教員の8名で構成する調査研究委員会が作成した調査研究資料等を参考に、校長職及び保護者代表で構成する選定資料作成委員会において、各社の図書を検討いたしました。書写及び地図については、書写は国語科、地図は社会科の委員会にて調査しております。調査研究委員及び選定資料作成委員を委嘱した全ての者について、今回の小学校用教科書の作成に一切関与していないことを、書面をもって確認済みであることをご報告いたします。今回の選定資料作成委員会は、小中学校校長13名、保護者代表2名の15名で構成しております。

市立小学校への調査は、6月21日までに全22校に見本本を回覧して実施しており、全ての学校から調査書の提出がありましたことをご報告いたします。

市民からのご意見については、資料5の参考資料をご覧ください。市広報紙及びホームページにて見本本展示会の開催を周知の上、6月6日（木）から19日（水）までの土日を含む14日間、教育センターにおきまして全ての教科書を展示いたしました。期間中の来場者は延べ人数で58名、アンケート回収は33件でございました。学校の調査回答及び見本本提示会における市民のアンケートをまとめた資料については、選定資料作成委員会に提出済みであることをご報告いたします。

ただいまご報告した各調査の資料については、本日お手元に配布いたしました。

資料2は、教科用図書選定資料作成委員会の作成資料、資料3は、調査研究委員会の調査資料、資料4は、学校による調査回答のまとめ資料、資料5は、見本本展示会におけるアンケートをまとめた資料となっております。

資料1の裏面「令和2年度使用小学校用教科書目録一覧」をご覧ください。今回の採択対象は全60種ありますが、そのうち、理科と生活科に記載の信州教育出版社については、信州の地域を意識した内容の作りとなっており、また、これまで府中市での採択実績のない出版社であることから、調査の対象としていないことをご報告いたします。

では、選定資料作成委員会の検討内容についてご報告いたします。はじめに、検討に当たり、委員会で確認した事項を3点ご報告いたします。

1点目は、資料内の「特記事項なし」の記載についてです。これは否定的な意味での「なし」ではなく、調査基準に対して適切であるため特段の記載事項がない、というものです。調査基準の項目に対し調査の漏れがないことが分かるよう、特記事項がない場合には全て記載する、と委員会で確認しました。

2点目は、デジタルコンテンツの調査の扱いについてです。今回の教科書の特徴として、デジタルコンテンツが利用できるQRコードが多くの教科書で見られました。そこで、今回の調査では、デジタルコンテンツを教科書に掲載された資料の一つとして扱う、と委員会で確認し、各教科で資料として特筆することがあれば調査資料に記載しております。

3点目は、ユニバーサルデザインについてです。ユニバーサルデザインに特化した調査項目はありませんが、各社各教科において、色や書体に関するユニバーサルデザインの配慮がありましたので、各調査資料で随所に記載しております。

では、資料1の教科書目録一覧に則り、1教科ずつご報告しますので、ご協議をお願いいたします。国語科については、調査研究委員会委員長より、各社において学習指導要領の内容が網羅されており全体的に内容にボリュームがあるため、しっかり年間指導計画を立てる必要性を感じる、との報告がありました。これまでの教科書で掲載されていた馴染みのある教材については、各社引き続き掲載されているものもありますが、同じ教材でも扱いに変更が見られたとのことでした。例えば、読み物教材から読書へと変わっている、などの変更です。その他には、全体的に自らの学習を促すスタイルになってきていること、学びの系統性が見られること、単元の見通しの配慮があること、今日的な課題について取り上げられていること等についてもあげられました。国語科については以上です。ご協議の程、よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

それでは、各委員よりご意見をお願いします。まず松田委員、お願いします。

○委員（松田 努君） 国語ですけれども、私は2社選ばせていただきました。まず、光村図書でして、理由は単元の初めに何を学習するのかが書かれていて、書かれているものはほかにもありますが、一番わかりやすく、巻末の付録の学習を広げようでは様々な内容があり、まとめもできるようになっていて非常に良いと感じました。

次に、東京書籍です。学習前のページで「つかむ」、最後に「ふりかえる」があり、2つともわかりやすく学習できるのではないかと感じましたので、この2社を推したいと思います。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 第一に、私は国語の学力を上げるために、最も効果的なことはいろいろな本を読むことと思っています。いろいろな表現法、言葉遣い、漢字等を学ぶためには低学年からの長い積み重ねが大きな差となります。読書に対する興味を持たせるための内容になっているか、新しい発見があり、さらに深めようとする指導がなされているかを見ました。第二に、話すこと、書くこともやはり多くを経験することが大事になります。このために、わかりやすく、親しみやすく、興味深く教科書が作られているかを基本に選定させていただきました。

まず、東京書籍です。グループで関連する本を紹介しあう等、図書館を活用するようになっています。単元の初めに「つかむ」として大切なことが書かれており、さらに「取り組む」「ふりかえる」と分かりやすい。光村図書は学習の進め方、学び方を丁寧に指導されており、単元ごとに自分の感想を伝え合うところまで順序立てて構成されているように思います。文学など読んでほしい内容も多かったです。また、QRコードなどで家庭での自主学習ができる点も良いと思いました。教育出版は確かめよう、考えよう、深めよう、広げようの学習の手引きがとてもわかりやすく、紹介図書が多数掲載されており、良かったです。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 国語については、1社、光村図書を選ばせていただきました。1、「読むこと」の分種別作品数では説明的な文章と文学的な文章の作品数の割合のバランスがよく、詩歌「詩や俳句・短歌」が数多く扱われている。各作品の内容も充実しており、これまで長年にわたり、大切にされてきた教材と共に、今日的な課題を取り上げている教材が適切に盛り込まれている。こうした読み物教材を通して学ぶことにより、児童が筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を高めることが期待できる。2、「話すこと・聞くこと」の言語活動について、児童の身近な課題について「聞く」、「話し合う」、「スピーチ」と段階的に学習できる。この学習を通して、日常生活における人とのかかわりの中で、伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもち、広げていけることが期待できる。3、「書く力」を身に付けて高めていくために、各学年において説明的な文章と文学的な文章などを書く力を身に付けさせる活動が系統的に位置づけられている。いずれも児童が楽しく取り組めるような題材を扱い、着実に書く力が身に付けられるように工夫されている。また、2年生以上の巻末にある「ことばの宝箱」に示されている数々の言葉は、書いたり話したりする活動に、有効活用することができる。4、1年生の入門期の言語への指導が丁寧である。児童に身近な題材や想像力をふくらませるイラストなどを用いて、児童が楽しんで言葉の学習に入っていけるよう配慮している。その後も、児童が主体的に学習を進められるよう話題や題材が工夫されている。5、第2学年以上では、冒頭で「〇年生で学習すること」というページが設定されていて、1年間の学習の見通しが領域別に示されている。このページを活用して、教師が児童に1年間の学習の見通しをもたせると共に、定期的に振り返ることができるというような点から光村図書を選定しました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私は2社選ばせていただきました。まず、光村図書です。自主学

習がしやすい工夫がなされているということ、やわらかい色使いで見やすかったこと、他の教科との関連があるものが多く、子どもたちが興味を持って見られると感じたので光村図書を選びました。

次に、東京書籍です。「つかむ」、「取り組む」、「ふりかえる」で明確でわかりやすい使い方ができるということと、卵を題材にしたノンフィクションが紹介されている等、身近に感じながら国語の学習に取り組めるのかなと感じたので推薦させていただきます。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に、私の意見を申しあげます。私は1社、光村図書を推したいと思います。大変良くできた教科書という印象を持ちました。それぞれの学年で習う漢字がこの本で習う漢字として学年ごとに、そしてこれまでに習った漢字が巻末にまとめられて掲載されています。これらは日常的な指導や復習に役立つ辞典としても使えるのではないかと思います。また、季節の言葉が取り上げられていて、伝統的な言語、文化を発達段階に応じて感じさせ、学習を広げようでは、コラム、大切のまとめ、点字と手話、指文字などの多様な言語活動の事例を示していました。ひらがな、カタカナ、漢字の筆順の表示も分かりやすかったと思います。そして、話すこと、聞くこと、書くことといった言語活動がバランスよく取り上げられている。また、読むことの作品として文学的な文章と説明的な文章が充実していて、発達段階に応じてよく精選されている。加えて、統計資料の読み方でグラフや資料を使ったものの進め方が取り上げられている。最後に、QRコードによって作者のプロフィールやほかの作品を紹介したり、平家物語の朗読などを直接聞くことができ、家庭学習にも役立つと思いました。そういった観点から光村図書を推したいと思います。

各委員の意見を踏まえまして、ほかにご意見やご質問等はございますか。

○委員（平原 保君） 私はQRコードについて申しあげませんでしたでしたが、教育長からありましたので、私は光村図書のQRコードについて感じたことは、詩や文学作品の朗読、友達との質問の仕方、スピーチの手本、学習に役立つリンク集等が充実しているなど感じています。こうしたデジタルコンテンツにより基礎基本の定着や発展的な学習の支援に効果的であると感じています。

○教育長（浅沼昭夫君） ほかにございますか。

ここまでのご意見をまとめますと、光村図書出版の評価が高いようです。採択候補は、光村図書出版の教科書でいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、次の種目の説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 書写については、各社とも、子供が楽しめる工夫があり、発達段階に配慮があるとの報告でした。また、話題になったのは水書きシートの有無でした。筆の使い方についてQRコードに動画の掲載があるもの、手本が原寸大で分かりやすいもの、イラストやキャラクターがかわいらしく子供に分かりやすいものなどがあげられました。ほかには、例えば、QRコードで筆の作られ方が掲載されており、社会科にも関連付けられるなど、他教科との関連資料も見られました。書写については以上です。ご協議の程、よろしく願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

それでは、各委員よりご意見をお願いします。まず松田委員、お願いします。

○委員（松田 努君） 今説明がありましたように、水書きシートについて迷いましたが、水書きシートのあるなしにはとらわれず、2社選ばせていただきました。一つ目は光村図書で、6年生に書写ブックというのがあるのですが、各学年の学習を振り返るのにとても便利だと思ったのが一番の理由です。もう一つは東京書籍で、3年以上の書写のかぎという、意識するところがわかるようになっていて、自分がもし子どもだったらわかりやすいと感じたので、この2社を推したいと思います。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 書写については、他の教科にも言えることですが、いかに多くの字を書くかが基本と考えます。楽しく多く書くために先生方の工夫が必要となります。毛筆の扱い始めは難しいですが、最初から基本を大切にしてほしいと思います。この観点から選びました。

東京書籍と日本文教出版は毛筆の穂先の向きがわかりやすく、水書きシートがあり、たくさん練習できる。教育出版は運筆のポイントがわかりやすい。この3社が良いと思いました。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 私は2社選択いたしました。まず、学校図書ですが、1、学習の進め方が明示されていて、児童が課題意識をもって学習することができる。2、鉛筆やボールペンなどで、教科書に書き込めるようになっていて。3、毛筆の手本が原寸大で示されており、児童にとっては良い手本として活用できる。児童が教科書を手本とできるので、教師にとっては、改めて手本を用意する必要がない。4、書写の学習に興味・関心がもてるように書写に関するコラムとして2年鉛筆の作り方、3年墨の作り方、4年和紙の作り方などが掲載されている。5、全学年の巻末に「書写の資料館」というページがあり、文字に関わる資料が豊富に掲載されている。その内容は他教科との関連も考えられており、教科横断的に書写の学習を進めることができる。6、各教科書にQRコードがついていて、デジタルコンテンツが活用できると感じました。

もう1社は光村図書で、1、学習過程、めあてやふりかえりが児童にもわかりやすいように明示されている。2、用具の準備や片付けなどが写真付きで説明されていてわかりやすい。3、毛筆のお手本が二色で、筆づかいが分かりやすい。4、毛筆の筆づかい、始筆、送筆、終筆などの穂先の向きや動きがわかりやすい。5、低学年の児童が水筆をつかって書けるように水書きシートがついている。児童が「とめ・はね・はらい」を意識して文字を書けるようになることが期待できる。6、各教科書にQRコードがついていて、デジタルコンテンツが活用できるので選びました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私は2社推したいと思います。まず、光村図書で書写の中で他教科と関連した様々な内容を学んだり、触れたりできるところが良いと思いました。もう1社は学校図書です。平原委員がおっしゃったように毛筆の手本が原寸大でついていて、無駄がなくて良いと思いました。また、全学年に書写の資料館というページがついていて、興味関心が高まる工夫がされていると感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に、私の意見を申しあげます。1社光村図書を推したいと思います。その理由なのですが、毛筆での穂先の向きや動きの説明が写真やイラストと

必要に応じて使われており、極めてわかりやすく表示されている。また、QRコードによって、ネット上であたかも先生から個別指導を受けているかのような動画があり、子どもたちにとって大変興味をひく内容で、それ以外にも漢字の書き方、はらい、とめ、筆順と形などが取り上げられていて良いと思いました。

それでは、ほかにご意見やご質問等はございますか。

○委員（日野佳昭君） 光村図書について皆さんの考えを聞いて、子どもにとって分かりやすいということでしたので異存はありません。

○教育長（浅沼昭夫君） ほかにございますか。ここまでのご意見をまとめますと、意見が少し分かれたましたが、光村図書出版の評価が高いようです。採択候補は、光村図書出版の教科書でいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、次の種目の説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 社会科については、教科の特性上、調査において、深い学び、学び方の習得、言葉の難しさの3点を意識したとのことでした。社会科は時代によって学び方があるため、時間軸での認識がしやすいか、各種グラフの読み方は算数科で学習した上で読み取りができるか、キーワードや子供に馴染みのない難しい言葉はどのように扱っているか、ということです。調査では、各社とも、発達段階や系統性を踏まえた内容の適切さ、統計表や地図資料などの分かりやすさ、難読語句をキーワードとして扱い、解説を付けるなど、意識して工夫が見られました。また、子供自身が課題を見付けて解決するために、1時間ごとのねらいを意図的に記載していない教科書も見られました。社会科については以上です。ご協議の程、よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

それでは、各委員よりご意見をお願いします。まず松田委員、お願いします。

○委員（松田 努君） 私は日本文教出版を推したいと思います。理由は、私たちの学びを生かそうなどのコーナーが、より発展した内容を学ぼうと興味を持ちそうで、非常に良いと感じました。また、地元の話題が出るというのは、子どもたちにとっても嬉しいことだと思いますので、教育出版にも掩体壕が扱われていますが、くらやみ祭や多摩川清掃など府中市が載っていることでより身近に感じられると思いますので、推したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 社会は読み物として面白かった思い出があります。興味を持ったものはさらに図書館で調べることもできます。読んで楽しいものを一番に選びました。

教育出版は情報量が多く、内容が興味深い。つかむ・調べる・まとめる、という学習過程が分かりやすい。日本文教出版は、一時間一見開き構成となっており、学習しやすい作りで内容も十分あると思います。また、本文が三分割されていて内容を理解しやすい。府中、多摩地区の内容がある点が良いと思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 私は教育出版1社を選択しました。1、学びのてびきが示されており、問題意識の喚起、調べる手がかりや注意事項、まとめ方への助言など、情報を適切に調べまとめる技能を着実に身に付けられるように工夫されている。2、巻頭に社会科の学習

の進め方が示され、児童が問題解決的な学習に見通しをもって進められる。そして、各単元が「つかむ・調べる・まとめる」という学習が展開できるように構成されており、「問い」から展開していく流れを重視されており、児童が「社会的な見方・考え方」を働かせて問題解決に主体的に取り組むことができる。こうした学習過程を通して、基礎基本の知識や技能を身に付けると共に、思考力・判断力・表現力を育むことができると期待できる。3、社会の今日的な課題「人権教育・福祉教育・環境教育など」について多角的・多面的に考えられる教材が、バランスよく配置されている。4、自然災害から人々を守る活動に国、地域の関係機関や人々が行ってきた取組及び今後の備えについて、豊富な写真や図、わかりやすいコラムが数多く掲載され、児童の気づきと問題意識を喚起するように工夫されている。5、5年生では、野辺山高原の農業「野菜作り」や「酪農」、「観光」、「開拓の歴史」など6ページにわたって取り上げられおり、府中市のセカンドスクールと関連付けて学ぶことができる。6、「まなびリンク」を示した箇所に、説明や動画など学習への興味・関心を高めるコンテンツが用意されている。QRコードを用いたりURLを入力したりしてアクセスでき、家庭学習にも活用できると感じています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私は2社です。まず、日本文教出版です。非常に見やすかったという点と、3年生は関西の内容が多いですが、4年生、5年生、6年生は玉川上水、野火止用水、多摩川清掃、くらやみ祭、調布や高尾、東京防災など非常に身近な地域の内容が多く、子どもたちが興味を持って教科書を見るのではないかと考えました。

次に、東京書籍です。こちらは6年生の教科書が歴史と政治に分かれていて、内容的に分かりやすいと感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に、私の意見を申しあげます。社会科は3社でございますけれども、ともに各ページにQRコードがない作りになっていると読み取りました。これは社会科の教科書はいつでも写真や資料が豊富な作りになっていることから、体裁が整えにくいのかと勝手に推察した次第です。見方によっては他の教科に比べて教科書と関連付けた資料などのデジタル化が遅れているのかなというふうにも感じた次第です。この教科書が実際に4月から使われるまでにQRコードが各ページに付けることができるのかというのは疑問として残りましたが、現時点で比較すると、第一の採択候補にしたいのが日本文教出版で、次の候補が教育出版と考えました。日本文教出版ですが、先ほども委員からご指摘がありましたけれども、決め手は4年生の各地に見られる年中行事として、1ページにわたり武蔵府中くらやみ祭が取り上げられ、郷土の森博物館の館長の談話が掲載されているということです。府中市の子どもたちが誇りに思っているくらやみ祭、これは子どもたちにとってもとても良い教科書だと感じました。

教育出版ですが、6年生の教科書に白糸台の掩体壕の写真がございます。それから内容構成とともに十分精選されておりまして、読みやすく視覚的に受け入れやすい全体的な印象を感じました。まとめる・深めるという観点の中でキーワードによって学習内容の理解に定着させることができるといった特徴から、私は第一に日本文教出版、第二に教育出版を推したいと思います。

ほかにご意見やご質問等はございますか。

○委員（平原 保君） 私は教育出版1社でしたが、日本文教出版につきましても問題解決の流れというのはしっかり構成されていて、社会科の学習がしっかりできていると感じています。また、皆さんから府中市に直接的な関わりが深いということで、そちらを推すことに賛同できます。

○教育長（浅沼昭夫君） ここまでのご意見をまとめますと、日本文教出版の評価が高いようです。採択候補は、日本文教出版の教科書でいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、次の種目の説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 地図については、教科書の内容と連動していることと、資料としての要素が強いこと、という2社の特徴的な違いが見られました。地図でのデジタルコンテンツは、QRコードではなくホームページへ画面が飛ぶように設定されていました。地図については以上です。ご協議の程、よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

それでは、各委員よりご意見ををお願いします。まず松田委員、をお願いします。

○委員（松田 努君） 私は帝国書院を推したいと思います。地図でよく使うと思われる索引については、どちらも見やすさや数は変わらないと感じました。東京オリンピック・パラリンピックの予定地や競技名があるのはこの時期だからこそ良いと思うので、また、東京都の学校としても非常に良いと思いましたので、帝国書院を推したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて日野委員、をお願いします。

○委員（日野佳昭君） 帝国書院は大きく見やすい。内容もより分かりやすく、地図内の資料が多く、ただの地図ではなく本となっていて知識が覚えやすく、大変面白いものとなっています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて平原委員、をお願いします。

○委員（平原 保君） 私も帝国書院を推したいと思います。巻頭の地図帳の使い方「地図ってなんだろう」「地図のやくそく」「地図の使い方」は、12ページにわたり文字や記号も大きく見やすく、丁寧にわかりやすく示されている。入門期の3年生が、楽しみながら地図について理解したり、活用したりできるようになっている。さらに、3年生はもとより6年生まで各学年において有効活用できる。

また、児童にとって、以下のように見やすい地図表現となっている。1、A4版で見開きページの表記で大きく見やすい。2、特産物は文字と絵で表されている。3、各地の名産品や観光地などのイラストが豊富で楽しく親しみやすい。4、東京都全体（区部・市町村部、島しょ部）が分かりやすく表記されている。5、府中市の位置表示も分かりやすく、府中の森公園・大國魂神社等の表記もなされている。

また、児童が主体的に学べるように工夫されているという点で3点。1、「地図マスターへの道」の問題を参考にすれば、自分で課題を発見して解決できる。2、スパロウ博士、子どものキャラクターなどが、地図帳の使い方を紹介したり、大切なポイントを確認したりしている。3、東京2020オリンピック・パラリンピックの主な会場予定地や競技名なども記載されており他の教科・領域においても活用できる。

さらに、後半のページは各単元に合わせた資料「日本の自然のようす」「日本の自然災害と

防災」「日本と世界の結びつき」など、わかりやすく豊富な資料が掲載されている。これらの資料を活用することで、主体的に課題解決に取り組むことができる。

最後になりますが、表紙・背表紙ともにコーティングされており、4年間の使用に耐え得る丈夫な製本仕様である。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私も帝国書院を推薦いたします。内容的には各委員さんからもお話がありましたが、オリンピック・パラリンピックの予定地や競技名が載っていて、府中市も分かりやすく出ていて、子どもたちも自分の住んでいる街に誇りをもって、資料を楽しく見られるのではないかと感じました。あと、自然災害の写真等も載っていて、今後覚えてほしいことやそれを糧に成長してほしいことも載っているので、帝国書院を推したいと思います。○教育長（浅沼昭夫君） 最後に、私の意見を申し上げます。私も帝国書院を推したいと思います。地図の色合いが鮮やかでありながら、表記の文字が大変読みやすい作りになっていると感じました。それから鳥瞰図や絵地図が充実していて、東京都とその周りの地図には府中市、東京競馬場、大國魂神社、府中の森公園等が掲載されているということで帝国書院を推したいと思います。以上です。

ほかにご意見やご質問等はございますか。

ここまでのご意見をまとめますと、帝国書院の評価が高いようです。採択候補は、帝国書院の教科書でいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、次の種目の説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 算数科については、日常的な生活や学校生活など身近な場面を取り入れ、算数を生活の中で感じられる工夫や、イラストや写真等の使い方の工夫、系統性や発達段階に応じた分かりやすい工夫などが、各社に見られました。教科書によっては、直に書き込める工夫や、他より多くデジタルコンテンツを活用していることを特徴とするものなどの違いが見られました。また、教科書の大きさが大きく見やすくなっている教科書や、1冊と分冊の扱いの違いなどについてもあげられました。サイズが大きいものや1冊のものはその分重さがあり、逆に分冊は1冊あたりの軽量化はしますが、内容が2冊に分かれてしまう、などそれぞれの良さや課題があげられました。算数科については以上です。ご協議の程、よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

それでは、各委員よりご意見をお願いします。まず松田委員、お願いします。

○委員（松田 努君） 算数については2社推したいと思います。まず、学校図書です。主体的・対話的で深い学びを3つの学び方で進めていて、単元の最後に深めよう・振り返ろう・つなげようで学習内容を活用できるようにしているのが良いと思いました。また、補充問題などそれぞれに応じた学習に対応していると感じました。もう1つは大日本図書です。こちらは考える課題である「めあて」がわかりやすいと感じました。巻末の前年度の学年までのポイントのまとめは児童にとって非常に役立つものではないかと感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 私は2社選びました。算数は英語と並んで中学校でついてこれ

なくなることが多いように思います。小学校でも繰り上がり、小数点、分数、割り算等、少しつまずきがちな関門が毎時間出てきます。一つ一つがわかりやすく書かれているか、教師にとって授業がやりやすくなっているかを見ました。また、算数の得意な児童にも配慮され、自分で先に進めることができるかも大切に考えます。

東京書籍は全体の構成が数学的思考方、解決、まとめ、振り返りと系統立てており、全体としてわかりやすい。割り算、小数点などつまずきやすい計算をわかりやすく説明しています。九九の説明も丁寧に感じました。補充問題も多く、算数の得意な児童にも配慮されていると思います。

教育出版は主体的・対話的で、つまずきのポイントである繰り上がり、小数点、割り算等、ポイントの説明が分かりやすく感じました。練習問題も適当な量で、進んだ児童にとってもやりがいがあります。中学校で使用するX、Yを用いる方程式が取り入れられ中学校に連携しやすい構成が多いと感じました。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 私は主に1社ですが、他の2社についてもふれたいと思います。東京書籍です。1、問題解決の過程を重視した教科書であり、各単元において大切な視点が示されている。児童が既習事項を生かして問題を解決できるように、具体物、絵や図、数直線、表やグラフなどを活用しやすいように丁寧に扱われている。児童が主体的に問題解決に取り組む中で、基礎・基本の定着を図り、数学的な思考力・判断力・表現力を高められる。2、1年①（上巻）はA4判でレイアウトにゆとりがあり、図やイラスト、書き込むスペースも大きく、1年生の児童が教科書にそのまま書き込むことができるように配慮されている。算数の入門期における1年生が算数に親しみやすい工夫がされている。3、2年生以上の学年では、「学びのとびら」に問題解決の学習について「問題をつかもう」「自分の考えをかきあらわそう」「友だちと学ぼう」「振り返ってまとめよう」が、わかりやすく示されていて、児童が算数の学習に見通しをもって取り組めるようになっている。4、また「算数マイノート」では、ノートづくりの基本や工夫の仕方が示されており、児童が算数の学習を着実に積み重ねていけるように工夫されている。5、教師にとっては、各単元で問題解決の過程において児童に育てたい資質・能力をおさえた授業づくりに有効活用できる紙面構成になっている。6、「Dマーク」を示した箇所に、数学的活動や動画など興味・関心をもって学習を進められる。コンテンツが用意されている。QRコードを用いたりURLを入力したりしてアクセスでき、家庭学習にも活用できる。

次に大日本図書です。1、問題解決の過程を重視した教科書であり、各単元において大切な視点が示されている。児童が既習事項を生かして問題を解決できるように、具体物、絵や図、数直線、表やグラフなどを活用しやすいように丁寧に扱われている。2、特に、数直線の使い方について、1年生「かずのせんのしくみ」から段階的に発達段階に応じて丁寧に扱っていて、5年生巻末「数直線のかき方」では、数直線図についてのまとめが示してある。児童が数直線図を活用して、数量の大小関係、演算決定、数学的表現等に有効活用できる。3、2年生以上の学年では、「算数学びナビ」に問題解決の学習の進め方や、ノートのかき方・話し方・聞き方などが、わかりやすく示されていて、児童が算数の学習に見通しをもって取り組めるようになっている。4、各学年の文字や図や表・グラフなどが、見やすく児童

にとってわかりやすい。5、「たのしい算数ウェブ」には、動画や練習問題についてのコンテンツが用意され、QRコードを用いたりURLを入力したりしてアクセスできる。

また、学校図書については、1、AB判でありレイアウトにゆとりがあり、児童にとって見やすく分かりやすい。図形、表やグラフなど、教科書に書き込めるスペースも十分にとつてある。2、2年生以上の学年では、「3つの学びの力をそだてよう」に、思考力・判断力・表現力の育成について児童にわかりやすく示されている。また、教師の授業づくりの指針としても活用できる。3、児童が各単元の学習を着実に進める中で、基礎・基本となる知識・技能を身に付けられるように配慮されていると感じています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） まず、学校図書です。他社の教科書より余白が多く、大変見やすいなと思いました。集中が切れやすい低学年なども目移りすることなく、先生がどこを指しているのかわかりやすく読み取れるかなと感じました。それから、キャラクターを使って6年間を通して身につけたい見方、考え方を意識付けできるような工夫がされているところも良かったと思います。それから、小中連携を見据えて6年生の教科書は上下1冊となって、中学校への架け橋という中学校の内容の一部に触れているところが、中学校への子どもたちのこれから進むところが少し見えるような作りになっているところも良かったと感じました。

次に東京書籍です。平原委員もおっしゃっていましたが、1年生が教科書にそのまま書き込めるという点が良いと思いました。また、こちらは単元の終わりの仕上げの問題で、右側に学んだページが書かれているのが、復習する際、どこでわからなくなってしまったのか、子ども自身が戻って確認できるという点良かったと思います。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に、私の意見を申しあげます。私は学校図書を推したいと思います。その理由ですが、AB判で全体として大きく見やすく、スッキリとしたページ立になっていること。それから、2学年から3つの学ぶ力ということで、考える力、判断する力、あらわす力を提示し、既習事項の活用、予想、考え方の根拠など、思考力を発展させる工夫がなされているということです。主体的・対応的で深い学びという学習指導要領の理念を意識して動機付けがなされていること。それから巻末の問題で、補助的に構成し、学習定着度が理解できることから学校図書を推薦したいと思います。

ほかにご意見やご質問等はございますか。

○委員（平原 保君） 府中市の児童生徒の実態調査の結果というのは、最新のものは把握しておりませんが、以前算数の支援員の方々に講演をする際に、児童の実態をお伺いしたところ、府中市の児童生徒の学力は、ここ何年か着実に上がってきているなと感じています。私が現場にいた頃は、都の平均を目指していこうというところでしたが、最近は全国や都の平均に追いついてきていて、その結果が中学生にも反映されているのかなと感じています。計算力や基礎基本の部分は上がってきていますが、B問題や問題解決を自分からしていくという部分は少し弱いのかなと感じています。そう考えると問題解決的な授業をしたり、子どもが学習をしていくことによって、そういった学力も上がっていくと思います。そうすると東京書籍のような本が望ましいのかなと思います。一方では、今まで実績を上げてきた学校図書は基礎基本が着実に積みあがっていくような教科書ではないかなと感じています。児童の実態を考えると東京書籍にしても良いのかなと思います。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ほかにいかがでしょうか。ここまでのご意見をまとめますと、主に学校図書と東京書籍という意見が出ておりますが、学校図書の評価が若干高いようです。採択候補は、学校図書の教科書でいかがでしょうか。採択候補ですので、定例会までに各委員さんの意見を踏まえて再度ご検討いただき、改めて意見を出していただければと思います。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、次の種目の説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 理科については、写真、イラスト、図表などが多く使われており、器具の基本的な使い方や学習の仕方などが分かりやすい工夫があるほか、問題解決の学習ができるような工夫も各社とも見られました。プログラミング学習については、4社が発展的な扱いをし、1社は問題の一つとして扱っていました。デジタルコンテンツについては、各社の特徴といえる違いはありますが、QRコードによる部分的な差異は見られませんでした。本の作りでは、他社よりも教科書の高さを4センチメートルほど高くし、その分全体のページが少ない上に、従来よりも軽い用紙が使用されている教科書がありました。理科については以上です。ご協議の程、よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

それでは、各委員よりご意見をお願いします。まず松田委員、お願いします。

○委員（松田 努君） 私は2社選ばせていただきました。まず1つは啓林館です。こちらは見つける・調べる・ふりかえるの学習過程で、問題、観察、実験、そして結果、まとめなど表示が順を追っていて、とてもわかりやすい。また、つなげようのコーナーでは事例に興味を持ち、学習したことをいろいろ結びつけることができ、非常によいと思いました。

もう1つは学校図書です。こちらは写真が多く、変化の様子がわかりやすい。特に月や星座、星の動きも単元では星座など授業に興味をより持てるように思えました。府中市自慢のプラネタリウムの学習にもつながっていくのではないかと感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 日本の基礎技術を支える科学者を育てる上で、理科の学習は大切です。理科の授業に興味をわき、楽しいものであってほしいものです。

東京書籍は学び方が3区分され、単元ごとにまとめまで、同じ作りとなっている。字の大きさの違いも加えて見やすくわかりやすく作られている。

その他、大日本図書と教育出版は高度な内容も含まれ、発達段階に応じた作りで興味深いと感じました。教育出版は季節による内容の変化があります。また、裏表紙に安全の手引きがあるのが良いと思いました。主に東京書籍1社を推したいと思います。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 私は東京書籍1社を推薦したいと思います。まず、本の造りとして、サイズがA4版になり、1ページあたりの情報提示が見やすく構成されている。また、観察・実験の流れが整理されていて、児童にとって理科の学び方に見通しがもてるようになっており、教師にとっては授業の流れが把握しやすく工夫されている。

巻頭にある「理科の学び方」問題をつかむ、調べる、まとめるを用いて、年度当初における理科の学習で活用できる。また、各単元の学習を進める中で、随時活用することもできる。

鮮明な写真と美しい絵で構成されていて、授業者、教師が見ても、児童が見ても、保護者

が見ても楽しくなり、理科の世界に興味・関心がもてる。例えば、3年「チョウの育ち方」観察2・3は、鮮明な写真に加え、ページのレイアウトも工夫されており、児童の興味・関心を引き出し、学ぶ意欲を高める工夫がなされている。また、4年「天気と気温」の朝のようすと昼のようすを対比する写真や、「植物の成長」における季節を対比する写真など、児童が問題をつかもうとするのに効果的である。

巻末資料「理科の調べ方を身につけよう」は、ノートの手書き方や自然観察の仕方、実験器具の使い方など、基本的な技能を身に付けるために活用できる。また、加熱器具や理科室での安全配慮について、まとめて掲載してあることは、教師にとっても授業づくりにおいて効果的なことである。

インターネットマークを示した箇所に、説明や動画など学習への興味・関心を高める充実したデジタルコンテンツが用意されている。QRコードを用いたり、URLを入力したりしてアクセスでき、家庭学習にも活用できると感じています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私はまず教育出版です。理由ですが、3年生と6年生の教科書では月の動きの写真が府中市となっていて、多摩地区の市の写真も多数掲載があり、子どもたちが身近に感じ、興味や関心をより持つのではないかなと感じました。それと、単元の最初のページの中学校までの前後の系統性が載っているというところでは、子どもたちが今まで学んだこととこれから学ぶことをよく理解できていいのかなと感じました。

次に東京書籍です。目次に4区分が明確に前学年で学んだことが記述してあるのと、単元ごとの表紙にその単元に必要な、前学年までに学習した内容が載っていて系統性や流れがとてもわかりやすく良いなと感じました。それと、川の学習が多摩川ということで身近な題材が出ていて良いなと感じましたので、2番目に東京書籍を推薦させていただきます。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に、私の意見を申しあげます。私は2社推させていただきます。まず、大日本図書を推したいと思います。その理由ですが、5年生の生命のつながりとして、人とめだかとアサガオ、人と動物と植物を一体として取り上げて、動物も植物も生命体として仲間を増やすという働き、それから成長するという働き、生物としての特徴を一体的に把握するような工夫がされていると思いました。同じく、人の誕生の子宮の様子ところで、羊水に関する記述がより正確で、機能の説明だけではなく、胎児の生命の維持・成長の仕組、あるいは生命の神秘さといったものが把握できる表現になっていると思います。それから実験の最後の注意事項がわかりやすい。それから5年生の植物の発芽のところでは、郷土の森公園の大賀蓮の扱いがあります。また、理科の玉手箱のページで発展的内容や日常生活の事例と学習内容を結びつけている工夫がなされているということで大日本図書を推薦します。

次の候補として、東京書籍です。サイズ大きくなったことが少し気になりますが、狭い学習机や理科の実験室での扱い等とか、どうなのかなと感じた次第です。課題解決については定評がある東京書籍を第二候補として挙げたいと思います。

ほかにご意見やご質問等はございますか。

ここまでのご意見をまとめますと、東京書籍の評価が高いようです。採択候補は、東京書

籍の教科書でいかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、次の種目の説明をお願いします。

○統括指導主事(田村貴代美君) 生活科については、各社共通して、スタートカリキュラムを導入で使っており、上下巻の構成となっています。全体的に国際社会、福祉社会を意識した作りになっている印象です。扱いに注意が必要なことには、各社とも工夫した注意書きがありました。また、学習の段階を踏んだ構成で子供が意識して学習できるもの、原寸大の図鑑が付いているもの、単元の見通しが分かりやすかったり単元に一貫性をもたせたりするなど、子供が学習しやすい工夫が各社に見られました。文章が多く国語科と関連付けられるものや、「あんしんあんぜん」の単元内容で東京都教育庁防災ノートより引用されているものがあることもあげられました。本の作りでは、A4変形版が多く、大きめのもの、ややコンパクトなものなどの各社の違いがありました。生活科については以上です。ご協議の程、よろしく願いいたします。

○教育長(浅沼昭夫君) 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

それでは、各委員よりご意見ををお願いします。まず松田委員、お願いします。

○委員(松田 努君) まず、東京書籍です。こちら全体的に写真、文字が大きく見やすいということとポケット図鑑もきれいで見やすく、興味を引くのではと思いました。また、活動便利帳もわかりやすく、安全・安心につながる項目も自分の身を守るところや通学のこととあってよいと思いました。

次に、大日本図書です。こちら安全・安心につながる項目がいろいろな場面を説明していて、安全行動につながるのではないかと思います。この2社を推したいと思います。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 続いて日野委員、お願いします。

○委員(日野佳昭君) 生活はまだ小学校生活に慣れない児童にとってスムーズに集団生活・集団行動するために大切です。わかりやすく興味を持てる内容が見ました。

日本文教出版で一番感じたことは全体的に見やすく、季節や時期に応じた単元の配列となっています。植物などの図鑑もうまく配置されています。子どもが気付くことのできる知識・知能が身につく、思考・判断・表現力を伸ばし、次の学年・授業につなげるという基本方針に沿った教科書ができていると感じました。点字の紹介もあり、興味がわきます。

東京書籍は動植物図鑑、草花、生き物の写真が大きく、たくさん使用されていて児童たちが興味を持てる作りです。各単元がうまく配置されて、より見やすい作りとなっています。保護者と学ぶデジタルコンテンツは家庭教育支援の面でも活用できます。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 続いて平原委員、お願いします。

○委員(平原 保君) 私は2社推薦したいと思います。まず、東京書籍です。1、入学から2週間の生活科の学習活動が「どきどきわくわく1ねんせい」に掲載され、入門期への配慮がなされている。2、大判A4版の紙面で、写真やイラストが豊富でレイアウトも工夫され、児童がみやすく興味・関心を引き出し、活動への意欲を喚起することが期待できる。3、小単元名、やくそく、注意喚起のマーク、記録カードの例示など、定位置に示されている紙面構成になっている。児童にとっては、活動への見通しをもって取り組みようになるこ

とが期待できる。また、教師にとっては、授業づくりへの手がかりとなり、活用しやすいと考えられる。4、巻末資料「かつどうべんりちょう」は、安全や健康に生活するために大切なポイントがまとめられている。また、道具の使い方や片付け等は、他教科においても基礎基本として大切な事項である。5、別冊の原寸大「ポケット図鑑」は、児童の気づきや発見を促す便利な資料である。さらに、生活科に限らず他の教科・領域においても活用できる。6、児童の写真の吹き出しに、活動する中での感想や思いが書かれていて、児童の気づきを促している。また、その内容は知識・理解、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力の育成へとつながるように配慮されている。7、「やくそく」に関連する資料に「Dマーク」で示され、デジタルコンテンツを活用できる。表紙裏面にQRコード及びURLが表示されており、アクセスしやすく家庭でも利用できる。

次に、日本文教出版です。1、巻頭に10ページを超えて「1ねんせいになったら」が掲載されており、小学校の入門期への配慮がなされている。学校における人との関わり、約束、学び、遊び、身の回りの安全など児童に喜びや期待をもたせることができる。2、鮮明な写真やイラストが豊富で、レイアウトも工夫されていて児童にわかりやすい。3、ページ構成に統一性があり、児童が利用しやすい。4、ポケット図鑑のイラストが美しく見やすい。5、植物や生き物、おもちゃ作りなど具体的な記述が多く、児童が興味をもって主体的に活動できる。6、巻末資料「ちえとわざのたからばこ」は、コミュニケーション、安全や健康に生活するために大切なポイントがまとめられている。また、道具の使い方や片付けなどは、他教科においても基礎基本として大切な事項であると感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私も2社推薦します。まず、教育出版です。理由としては巻末の学びのポケットがついていて、観察や調査のまとめの方法や学習内容に関わる本が掲載されていて、児童が学習の際に活用できるのがいいなと思いました。それと写真の中で多摩市や八王子市など近隣市が載っていて、多摩市ではどんど焼きが掲載されていました。府中市でもまだどんど焼きをやっている地域がありますので、子どもたち学びにつながると感じました。

次に東京書籍さんです。ほかの委員さんからもお話がありましたが、入学から2週間の生活科の学習活動が「どきどきわくわく1ねんせい」ということで掲載されていて、1年生が学校生活に少しずつ慣れていくのに即した内容となっており、わかりやすくとても良いと感じました。それと、ポケット図鑑に示された動植物が市内でも見られる植物だということで、そちらも使い勝手が良い教科書なのかなと感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に、私の意見を申しあげます。私は大日本図書を推したいと思います。まとめや発展学習に活用できる。そして、イラストや写真の印象が発達段階にマッチしているかなと思いました。それから自分の安全は自分で守ろうということがトップにありまして、子どもの安全という現代の社会的課題にマッチしているのかなと思いました。

次に、動物や植物に直接手を触れる行為というのは、大変価値があるわけですが、その際の感染症対策等々、手を洗うなどの注意配慮が適切に行われているということです。

それから、QRコードについては裏表紙にありますけれども、低学年では妥当かなと思いました。

続いて次の候補としては、フォントの大きさ、ポケット図鑑などの工夫と充実、活動の広がりとともに学習がはかどっていく内容構成、保護者にDマークとしてデジタルコンテンツを案内している点を評価し、東京書籍を推したいと思います。以上です。

ほかにご意見やご質問等がございますか。

ここまでのご意見をまとめますと、東京書籍の評価が高いようです。採択候補は、東京書籍の教科書でいかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、次の種目の説明をお願いします。

○統括指導主事(田村貴代美君) 音楽科については、2社に共通して、発達段階に即した内容構成であること、児童の実態に合った曲を選曲できるようになっていること、教材の写真やイラストの工夫などがあげられました。また、2社の特徴的な違いとして、音楽専科が使いやすい作りと担任が使いやすい作りということがあげられました。担任が使いやすい教科書は、単元のポイントがつかみやすいようキャラクターを使っており、第1学年から第6学年まで各学年で何を学ぶのかが分かりやすい構成になっているという特徴が見られました。専科が使いやすい教科書は、透明フィルムを利用し、楽器などが分かりやすく、見やすい工夫がありました。QRコードの扱いは、1社は教科書の冒頭で1か所、目次のような付け方をしており、もう一方は関連する箇所に随所掲載していました。音楽科については以上です。ご協議の程、よろしくお願いいたします。

○教育長(浅沼昭夫君) 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

それでは、各委員よりご意見をお願いします。まず松田委員、お願いします。

○委員(松田 努君) 私は教育芸術社を推したいと思います。理由としましては、1年間の学習内容がイラストでわかりやすくなっていることと、鑑賞の写真、イラストが楽曲とマッチしていて、より関心を持ち、楽しく学べるのではないかと感じました。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 続いて日野委員、お願いします。

○委員(日野佳昭君) 音楽は選んである楽曲の内容で教育芸術社を選びました。より心に残る、懐かしい、覚えてほしい日本の昔の曲があります。鍵盤ハーモニカとリコーダーの基礎練習も分かりやすい内容です。英語の曲が3年生からの各学年に取り入れられていることは、英語教育との連携で良いと思いました。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 続いて平原委員、お願いします。

○委員(平原 保君) 私も教育芸術社を推薦したいと思います。1、学習指導要領に即し、各学年にふさわしい内容が扱われている。2、発達段階に応じて、「音楽的な見方・考え方」を働かせながら学習を積み重ねて、段階的に基本的な力が身につくように配慮されている。3、「みんなでたのしく」から児童の実態にあった曲を選曲することができる。4、学年ごとのキャラクターの発言により、単元のポイントをつかみやすいものになっている。5、低学年などで、音楽を専門としない担任の教員が指導する際にも、活用しやすいと考えられる。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 続いて新島委員、お願いします。

○委員(新島 香君) 私も教育芸術社を推薦します。理由としては各学年の見開きの最初のページに1年間の学習内容が豊富なイラストでまとめられていて、子どもたちが自分で

1年間の見通しをもって学習できること。さらに、学年共通して単元ごとに色分けされているので、1年生から6年生を通して何を学ぶのかがわかりやすくなっている構成が良いなど感じました。それと平原委員からもありましたが、学年ごとのキャラクターの発言が大変単元のポイントがつかみやすいものとなっていて、子どもたちもわかりやすく、先生も説明がしやすいと感じましたので、教育芸術社を推薦させていただきます。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に、私の意見を申しあげます。私も教育芸術社を推したいと思います。その理由としては、巻頭の学習内容のイラストとともにわかりやすく指示して見通しにつながる。「みんなでたのしく」で、選曲の手だてとなる。それから、QRコードが関連ページに記されて、音楽を聞いたり、関連情報を調べたり、中には指揮の仕方、棒の振り方の動画を見ることもできたという点も優れていると思いました。それから「ふりかえり」のページとして学習内容のまとめが示されている。国歌「君が代」のページが各学年に応じて説明、写真などが工夫されているということで教育芸術社を推したいと思います。

ほかにご意見やご質問等はございますか。

ここまでのご意見をまとめますと、教育芸術社の評価が高いようです。採択候補は、教育芸術社の教科書でいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、次の種目の説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 図画工作科については、2社ともアーティストの作品が多く掲載され、写真や資料なども多く掲載があり、子供の興味を引き出す工夫がされていること、疑問形の吹き出しを用いて思考を促す構成になっていることがあげられました。2社の違いでは、QRコードを活用して関連内容が見られる工夫と、児童の作品を多数掲載し意欲を引き出しやすくしていることがあげられました。図画工作科については以上です。ご協議の程、よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

それでは、各委員よりご意見をお願いします。まず松田委員、お願いします。

○委 員（松田 努君） どちらも明るく、見やすいつくりで、児童の意欲を引き出すようなレイアウトや色使いだったり、身近なものを教材に多く使用して興味を引いていて、どちらも良いと感じました。どちらかを選ぶならば、QRコードでさまざまな関連した内容を見ることで興味や意欲がより広がるのではないかと思いますので、開隆堂出版を推させていただきます。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて日野委員、お願いします。

○委 員（日野佳昭君） どちらの教科書も分かりやすく、読みやすくできており、良いと思います。どちらかといえば、日本文教出版はいろいろな芸術作品、イラスト、作品や活動している写真が多く分かりやすい。安全への配慮や片付けのアドバイスがあるのも良く、こちらを推薦します。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて平原委員、お願いします。

○委 員（平原 保君） 私は日本文教出版を推薦します。1、児童が楽しそうに作品づくりや活動しているようすが分かりやすく紹介され、その作品が掲載されている。また、児童の気づきやつぶやきなどが吹き出しに記述してあり、児童が何をどのように学ぶのかがよく

わかる。低学年用のものは文字も大きくて読みやすいよう配慮されている。2、児童が友だちとかかわりながら創り出す喜びを感じながら活動している様子も多く紹介されている。さらに、喜びや感動を共有するように複数の児童が作品を鑑賞する写真も掲載されている。3、児童が材料や用具の扱い方が分かりやすく示してあり、技能を身に付けられるように配慮されている。「気を付けよう」、「かたづけ」には、その都度に大切なポイントが示されている。巻末資料「使ってみよう材料と用具」は、繰り返し活用していける。4、子どもの発想をひろげるヒントが多く掲載され、3つの学習のめあてが明示されている。5、地域との連携につながる活動も掲載され、府中市美術館との連携推進にも適している。6、写真が美しく、レイアウトもすっきりしていて見やすい。7、5・6年下巻の巻末に、「中学生になるあなたへ」というメッセージがあり、つくりだす喜び、人や社会とかかわる喜び、自然や文化のおもしろさや美しさを感じとる喜びを大切に、生きていくことへのエールが送られていると感じています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて新島委員、お願いします。

○委 員（新島 香君） 私も日本文教出版社を推薦します。理由は児童の作品が多く紹介されていて、自分も頑張ろうという意欲を引き出されると感じました。QRコードがない教科書ですが、全体的にわかりやすく、イラストや写真等が豊富なので十分な学びがあると感じました。また、低学年用のものは文字も大きく読みやすかったのが良かったです。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に、私の意見を申しあげます。開隆堂は各ページにQRコードがありますが、ホームページから内容を選択する形になっているかと思います。日本文教出版はパソコンやインターネットでさらに学習を深めましょうという記述だったかと思います。そういった点を踏まえまして、私は日本文教出版を推したいと思います。平原委員からご指摘がありましたが、「美術館へ行こう」で美術館との連携、それから作品や材料の写真やイラストも洗練されている。材料と用具のページが設けられ、使い方をまとめて提示している。教科書の見開きの左上に、鑑賞、絵、工作、立体など学習課題を端的に示してわかりやすい体裁になっている。という点から日本文教出版を推したいと思います。

ほかにご意見やご質問等がございますか。

ここまでのご意見をまとめますと、日本文教出版の評価が高いようです。採択候補は、日本文教出版の教科書でいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、次の種目の説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 家庭科については、2社とも共通して、例示や作品の掲載などで子供の興味・関心を引く工夫があること、問題解決や深い学びができるよう各々3ステップで構成されていること、第5学年・第6学年の学習の連続性や系統性を踏まえた構成になっていることがあげられました。2社の違いは、一方は原寸大の写真等資料が見やすく、全体的に学級担任や若手の教員が使いやすい印象であり、もう一方は大きさがコンパクトで調理の実習などに使いやすい工夫があり、経験の長い教員が使いやすい印象でした。家庭科については以上です。ご協議の程、よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

それでは、各委員よりご意見を申し上げます。まず松田委員、申し上げます。

○委員（松田 努君） 私は東京書籍を推したいと思います。理由としましては、他教科との関連性、今後学習する項目をととてもわかりやすくまとめてあります。生活を変えるチャンス、プロに聞く日本の伝統などの各コーナーも面白く、学習や実習の意欲につながっていくと感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて日野委員、申し上げます。

○委員（日野佳昭君） 家庭科は私にとってはあまり好きとは言えない科目でしたが、共同作業をすることで子どもたちのコミュニケーションの場となり、大切な科目です。

東京書籍は手順が分かりやすく記載されています。開隆堂は細かくいろいろな知識が含まれています。英語教育などが含まれている開隆堂を推薦したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて平原委員、申し上げます。

○委員（平原 保君） 私は開隆堂を推薦したいと思います。1、児童が見て基礎的・基本的な知識及び技能を習得するために、わかりやすい表示である。例えば、裁縫の基礎技能、玉結び、玉どめ、なみ縫い、小物づくり等について、各ページ右上の二次元コードを読み取ることで、動画等のデジタルコンテンツを使用して学習できる。また、右利き、左利きについての対応資料が使いやすい。児童も活用しやすく、教師も提示資料として有効活用できる。ミシンの使い方など、見開きページにすっきりしたレイアウトで示し、児童にとってわかりやすい。ご飯の炊き方、味噌汁の作り方など調理についても見開きページにすっきりしたレイアウトで簡潔に示し、児童にとってわかりやすい。繰り返し積み重ねて基礎基本を着実に身に付けられると感じました。2、児童が、予習や復習にも活用しやすい。授業以外の場面（家庭）においても、使いやすい教科書である。3、カラーユニバーサルデザインの視点から個人差を問わず、児童が見やすくわかりやすい配慮がなされている。4、「安全に実習しよう」で、児童が安全に留意できるような表示が工夫されている。5、巻末に、用具の外国語表記一覧を示している。日常生活における英語の習得にもつながる。府中市独自のCooking in Englishの取組などに関連付けて活用できると感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて新島委員、申し上げます。

○委員（新島 香君） 私は東京書籍を推薦します。理由としては、資料が大変見やすい原寸大でわかりやすいということです。実技が多い家庭科ですので、調理や裁縫などが写真・イラストで段階に分けて紹介されていて、先生が他の子の対応をしている時でも子ども自身が自分で進めていける内容になっていると感じました。特に調理のところは、いろいろな調理例が示されていて、食べるだけでなく作ることに興味、関心を引く内容で良いと感じました。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に、私の意見を申しあげます。まず、2社の教科書ですが、サイズが違い、東京書籍はA版、開隆堂はAB版で、ともにページの下に家庭科の用語を英語で示しています。先ほどご指摘があったとおり、併せて開隆堂には一覧表がついています。小学校英語科の導入を意識していると思いました。英語科と家庭科の2教科の指導に役立つと感じました。これを踏まえて、私は開隆堂を推したいと思います。ページ下に一口メモという欄がありまして、学びを広げるヒントになっていると感じました。それから、教科書の

サイズは小さいほうがいいのかと思っています。また、食材や料理の写真がより鮮やかだったと思います。そして、最後にQRコードがページごとに表記されておりまして、使いやすく、実習や家庭学習にも役立つのかなと感じた次第です。以上です。

ほかにご意見やご質問等はございますか。

ここまでのご意見をまとめますと、少し意見が割れましたが、開隆堂出版の評価が高いようです。採択候補は、開隆堂出版の教科書でいかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは次の種目の説明をお願いします。

○統括指導主事(田村貴代美君) 体育科保健については、各社とも写真やイラストで興味関心を引き出し、分かりやすい工夫が見られること、発達段階に応じた配慮がされていることなどがあげられました。また、教科書が小中学校で同一である必要はないけれども、小中の連携や学習内容の系統性が必要であること、特に、LGBTや第2次性徴など性に関することやいじめに関する事などは学校や市民の関心もあり、人権教育や道徳に関連するため、他教科との関連を確認する必要があることなどがあげられました。体育科保健については以上です。ご協議の程、よろしくお願いいたします。

○教育長(浅沼昭夫君) 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

それでは、各委員よりご意見をお願いします。まず松田委員、お願いします。

○委員(松田 努君) 私は2社推したいと思います。まず、光文書院です。こちらはオリンピック・パラリンピック選手、また候補選手の写真、コメント、サインなどがあり、健康に対する意欲や興味が持てると感じました。また、性についての悩みやLGBTに配慮した内容がとてもわかりやすいと思いました。

次に、学研教育みらいです。各章のまとめとなる、ふりかえる・深める・つなげるはとてもわかりやすく、よい構成になっていると感じたからです。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 続いて日野委員、お願いします。

○委員(日野佳昭君) 心身の健康を保つための保健は小学校の児童に必ず理解してほしい教育です。わかりやすく、親しみやすい教科書かどうかを大切に選びました。

学研教育みらいはイラストや写真が多く、子どもたちが興味を持てる。デジタル教材を積極的に採用している。悩みやいじめについても記載がある。どの単元も最後にまとめる・深めるという作りで理解しやすい。

東京書籍も学習の進め方に流れがあり、内容も細かくわかりやすい。英語の部分もあり、他教科と関連付けがある。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 続いて平原委員、お願いします。

○委員(平原 保君) 私は2社推薦したいと思います。まず、学研教育みらいです。1、1時間の学習の流れを「つかむ」、「考える・調べる」、「まとめ・深める」と「本文」で構成しており、児童が見通しをもって学習できる。そして、各章の内容構成が、健康について自己の課題を見つけ、考えたり調べたりして解決する力を高めることに効果的である。2、写真とイラストが効果的に使い分けられていて、児童にとって分かりやすい。情報が整理されていて、見やすい、分かりやすい。3、発達段階に応じた配慮がなされ、児童の理解や不安解消へつながると期待できる。例えば、3・4年「体の発育・発達」、5・6年「心の健康」

不安や悩みへの対処などがあります。4、生涯にわたって安全な生活を送るための知識・理解、習慣へとつなげられる。例えば、5・6年「けがの防止」、「病気の予防」があります。5、学習を深める「もっと知りたい・調べたい」のページは、資料が豊富で分かりやすく、児童の期待に応える内容や表記である。

次に光文書院です。1、巻頭「学習の進め方を知ろう」に、「自分の生活をふりかえる」から「自分の生活に生かす・伝える」までの学習について、児童にわかりやすく示されている。各単元について、児童が課題意識をもって取り組んでいくことが期待できる。2、「性についての悩み」の内容が丁寧に示され、児童の心の不安に寄り添った扱いとなっている。「心の健康」に関しても、不安や悩みなどへの対処について丁寧に扱っている。3、「けがの防止」については、学校や地域での安全について分かりやすく示してある。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私も2社です。まず、学研教育みらいです。理由としては、ふりかえる・深めるためのページが構成されているのが良いと感じました。また、デジタル教材が積極的に採用されていて、指導する上でも使いやすい教科書なのではと感じました。

次に東京書籍です。こちらは3年生の手の洗い方、5・6年生のけがの手当をしようなど、実習の方法を写真などでわかりやすく説明されているのが良いと思いました。各単元の資料を視覚的に捉えやすいように一目でわかるような工夫がされていて、児童の興味、関心を引く内容となっていると思いました。あとは、地域性ということで稲城、八王子、青梅などの写真が掲載されていて、子どもたちが身近に感じられると思いましたので、東京書籍を推したいと思います。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に、私の意見を申し上げます。まず、学研教育みらいを推したいと思います。体や心の成長が顕著となってくる小学校高学年の悩みや不安について学ぶことから全体的に明るい印象の構成が好ましく感じました。単元ごとにふりかえる・深める・つなげるページが設定され、学習を振り返るとともに自らのより良い日常生活につながると感じました。それから、喫煙、飲酒、薬物乱用について、法令にも触れながら丁寧に示されていました。社会的課題を解決していく授業の資料として、扱いが適切だと感じました。外出の際、あるいは自然災害、交通事故防止、自転車の乗り方など、安全な生活のためにとり上げている点も好ましく感じました。それから、QRコードによりデジタル教材にアクセスできるという点で、学研教育みらいを推したいと思います。

次に、光文書院を推したいと思います。性の悩みの丁寧な扱い、がん教育など現代的な課題に正対しているのかなと感じた次第です。

ほかにご意見やご質問等はございますか。

ここまでのご意見をまとめますと、学研教育みらいの評価が高いようです。採択候補は、学研教育みらいの教科書でいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、次の種目の説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 外国語科英語については、発達段階や学習指導要領の内容に即している点については、各社とも問題はありませんでした。キャラクターや有名人を使うなど、子供の興味関心を引く工夫が各社に見られました。年間の授業時間からみて、余

裕をもった構成であるのが3社ありました。また、現在使用している「We c a n」の内容に沿っているものが3社ありました。表現で「a」の表記や「o n」の使い方について、他社と違う指摘があった教科書が1社ありました。ほかには、別冊付きの辞書があるもの、巻末や付録にカードが付いているものが多い中で、カードを切ると不都合が出てしまう教科書があること、教師用指導書に多言語で記載されているものについては、日本語に不慣れな児童向けの資料が付いていることや、今後専科が増えたときに専科と担任の使いやすさについて配慮が必要となってくることなどがあげられました。また、本の作りとして、200グラム台が1社、400グラムを超えるものが2社あり、重さの差が見られました。外国語科英語については以上です。ご協議の程、よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

それでは、各委員よりご意見を願います。まず松田委員、お願いします。

○委 員（松田 努君） 私は2社推したいと思います。まず、三省堂です。三省堂は見開きの世界を意識できる写真から始まるのが良いと感じました。また、ホップ・ステップ・ジャンプで学ぶ過程がわかりやすくなっていて、付録がとても充実しているように感じました。次に、東京書籍です。Picture Dictionaryは2年間使えて便利に活用できるのではないかと思います。また、児童が興味を持ちやすい設定や資料になっていると感じたからです。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて日野委員、お願いします。

○委 員（日野佳昭君） 日本人の英語の学力が諸外国に比べ低いことは以前より指摘されています。早期に英語を聞き、話すことから英語に慣れ、中学校における英語教育に連携していかなければなりません。

学校図書は、最初に英語の歌から始まる面白い作りになっています。発音に難点のある日本人に耳から聞かせ、言葉で表現する手法は良いと思います。「聞く」、「読む」、「書く」の流れが理解しやすい。また、大判で見やすいと思います。

光村図書は生活の中から自然な英会話を覚える学習がとても分かりやすく作られています。会話形式が多く、楽しく英語の勉強ができると感じました。ALTの先生にも使いやすくできています。英語の歌が多いのも良いです。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて平原委員、お願いします。

○委 員（平原 保君） 私は3社候補にしています。第一に、光村図書です。1、デジタルコンテンツが、子どもたちにとって楽しく分かりやすい構成になっている。教科書に登場する人物が、アニメーションになって様々な場面でストーリーのある会話を表示している。音声だけでなく、動きを伴うアニメーションなので、視覚と聴覚を働かせて場面や状況にあった英語の使い方が理解できる。楽しく学びながら、英語が好きになって使いたくなることを期待できる。2、小グループで協力して活動することも設定しており、コミュニケーションを大切にして、主体的・対話的な学びへとつながることが期待できる。3、文部科学省の教材「We C a n」をベースにした内容になっていて、教師も利用しやすいと考えられる。4、写真・イラストなどが豊富に使われており、児童にとって分かりやすい。5、世界の国々への関心やスポーツを始め、世界で活躍する人々の紹介があり、児童が英語を学ぶことへの意欲が喚起される。6、英語の歌や物語、日本の民話なども取り上げられて、文化理解

にもつながる。

第二に、学校図書です。1、5年生導入では、各動作のイラストに即した英語の発音をデジタルコンテンツで聞くことができる。児童が家庭でも繰り返し使用することができる工夫がされている。2、A4版の大型教科書でイラストが豊富で場面設定が親しみやすい。1枚の大きなシーンで学べるよう工夫されている。教科書が重い点については気になります。

第三に、東京書籍です。1、Picture Dictionaryは、2年間活用することができる。日常生活や他教科の学習と関連づけても活用でき、効果的である。2、デジタルコンテンツが充実している。SingとChantで構成されていて、繰り返し使用することができる。3、日常生活場面や地図など、イラストがわかりやすく、ペア学習で会話を学ぶことができる工夫がされている。4、世界の文化に触れられるような写真が多用されていて、児童の興味関心を高める構成になっている。5、教科書に書き込みができるようになっている。6、巻末に様々な活動に役立つイラスト付き単語カードがついていると感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私も2社推薦します。まず、光村図書です。理由としては、これまでの英語の授業でやってきました文部科学省作成の「We Can」に沿った内容になっているというところで、先生方が教科書に移行するのに当たって使いやすいのかなと思いました。また、他教科との関連として国語、理科などの学びをつなげる活動があることも良いと感じました。さらに、コミュニケーションを大切にし、相手に反応する言葉を取り入れていることで、話すことにより興味や関心が向くのではないかなと思いました。オリンピックや世界各国の話題があり、小グループで取り組む活動が設けられているところも良いと感じました。

次に、啓林館です。こちらも文部科学省作成の「We Can」を踏襲しているというところが、先生方にとっては良いのかなと思いました。あと、ALTがいる府中において、教師用指導書に英語表記があるということがとても有用であるのではないかなと思いましたので、2番目に啓林館を推させていただきます。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に、私の意見を申しあげます。開隆堂、東京書籍、光村図書の3社が最後まで私の候補に残りまして、迷ったところです。そこで、着眼点としてデジタル教材について重視して考えました。いずれの教科書もQRコードを活用しているわけですが、特に英語においては利便性が高いと感じました。発音、チャンツ、会話などの予習復習においてその機能が発揮され、家庭学習で家族とともに英語を楽しむ環境が作り出せると感じました。今後のデジタル教科書に移行する際に、デジタルコンテンツの質が大きな鍵になるのかなと感じました。そういった観点から、1番が東京書籍、2番が光村図書、3番が開隆堂と考えました。以上です。

ほかにご意見やご質問等はございますか。

○委員（日野佳昭君） 補足ですが、学校図書のQ&Aでこの教科書は学校に置いておくことを想定しているとのことだったので、大きくて重たいかなと思いました、それなら良いかなと思いました。

○教育長（浅沼昭夫君） ほかにご意見やご質問等はございますか。

○委員（平原 保君） 3社候補としましたが、学校図書の切れてしまうところと東京書籍のアクセスできないところは改善していくのかなと思いますが、光村図書のアニメーションは話している子どもが大きくなるなど、デジタルコンテンツの部分で優れているなと感じました。

○教育長（浅沼昭夫君） ここまでのご意見をまとめますと、意見が少し割れましたが、光村図書出版の評価が高いようです。採択候補は、光村図書出版の教科書でいかがでしょうか。（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、次の種目の説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 道徳科については、府中市のくらやみ祭や多摩川、市に関連する有名人が掲載されている教科書が複数ありました。構成の工夫、イラストや写真などの工夫、付録や読み物の充実など各社に特徴があり工夫が見られました。生命尊重の内容に重点が置かれているものが2社ありました。ノートについては、使い方に制限があるものから自由度の高いものまであり、前回からさらに改善が見られたとの報告がありました。また、ノートがあることで、若い教員は使いやすい一方でノートの内容にしばられてしまいやすいこと、道徳科が始まってから現場での指導材料はたまってきており、年間指導計画もできていること、ワークシートは加工して使えるため、ノートに比べ使いやすいことなどがあげられました。道徳科については以上です。ご協議の程、よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

それでは、各委員よりご意見をお願いします。まず松田委員、お願いします。

○委員（松田 努君） 道徳の教科書のポイントの1つになるのが、分冊ノートの扱いだと思います。意見を見てもそれぞれだと思うので、私はあるのと、ないのと1ずつ挙げさせていただきます。まずはあるもので、日本文教出版です。こちらは心のベンチという項目で教材への理解をより深めることができる。また、資料作成委員会も実際に使用したが、児童の発達段階に即しており、わかりやすい教材が多いということや、道徳ノートが現行のものからリニューアルされ、シンプルでフリーな記述になり、授業の発問にあわせて幅広く活用できそうではないかという意見もあり、現在使っていて問題がないということで選びました。あとは光文書院です。こちらは体験的活動につなげやすい教材が多いと感じたので、より考え、議論する授業にアプローチしやすいのではないかと思います。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 道徳で学んでほしいことは日本人として思いやり、謙虚、優しさ、命の大切さです。

廣済堂あかつきは、まず別冊があることが特徴で、自分の考えを書くことにより自分を自覚することができる。各項目の最後に学習の道筋と広げるという項目があり、児童にも先生にも分かりやすいと感じました。本書の重点内容として自由と責任、思いやり、生命の尊さは私も大切と感じているところで個人的にも良いと思いました。

光村図書は、各項目の終わりに考えよう、話し合おう、つなげようの項目があり、各単元の考えてほしいことがわかりやすくなっています。考え、議論することは良い視点であり、よく配慮され、よく工夫されています。いじめの問題をよく考え、向き合うように一年を通して配置されており、みんながよく議論していただけると良いです。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 私は2社推薦します。まず、教育出版です。1、全学年の巻頭にある「〇年生の道徳の学習が始まるよ」には、道徳の学習の大切さや進め方など、児童の発達段階に即して、わかりやすく記述されている。また、次ページには「道徳ではこんな学習をするよ」と題して、「気づく、考える、深める、つなげる」が示され、児童にとって道徳の学習に進める過程が分かりやすい。これらを活用して、年度当初に各学年の道徳学習のオリエンテーションを行うことができる。2、多様な教材がバランスよく掲載されていて、児童が幅広く学ぶことができる。いじめ問題、命を大切にする、情報モラルなど、重要課題であり、道徳の授業においても、大切に扱っていきたい教材である。また、これまでの道徳の授業で実践・研究を積み重ねて、長年取り扱われている教材も数多い。一方、現代的な課題として防災4年「その日の朝に」、福祉3年「わたしたちの『わ』」、食育2年「いただきます」などの教材も豊富に掲載されている。さらに、高学年では、先人や現代活躍する人物の努力・功績を扱い、4年「伊能忠敬」5年「渋沢栄一」、「星野富弘」、6年「山中伸弥」、「新渡戸稲造」、「棟方志功」、様々なジャンルにおいて活躍し、社会に貢献した人物について掲載されており、児童の興味をひく内容である。3、1年生の教科書には、府中市出身でサッカー選手として活躍した「澤穂希選手」について書かれた教材「すきなものをみつけよう」が掲載されている。3年生「お祭りにこめられている思い」は江戸川区の祭りであるが、府中市のくらやみ祭ともかかわりをもたせて扱うと、児童にとって身近なこととして考えられると期待できる。また、3年生「エイサーの心」や5年生「よさこいソーラン祭り」は、府中市の児童が運動会で披露することも多々あり、児童にとって身近な教材であると考えられる。5、各学年の教材について、文字の大きさや分量が適切であり、45分の授業の中で、児童が考えたり議論したりして、着実に学べるように配慮されている。6、低学年は、児童が親しみやすいように絵が多く、高学年では写真が多くなるなど発達段階に即したものになっている。また、教材の内容では、低学年は物語教材「かぼちゃのつる」、「はしのうえのおおかみ」、「きつねとぶどう」など、中学年は児童の生活場面から「気づく心」、「ドッジボール大会」、「雨のバス停留所で」などを多く扱っている。さらに高学年では、実在の人物の生き方から、児童が自分の生き方について考えを深めさせる教材が多くなっている。こうして発達段階に即した内容になっている。7、本の造りとしては、A B版サイズで文章や挿絵・写真などにレイアウトにゆとりがある。また、ユニバーサルデザインに配慮されていて、読みやすい。表紙の絵は、優しいタッチで子どもの生き生きとした表情や姿が描かれていて、明るく温かさを感じることができる。8、「まなびリンク」は、QRコードやURLからアクセス可能であり学校及び家庭でも使用しやすい。動画、音声、参考になるウェブサイトへのリンクなど、教材での学びを深めたり、充実させたりするために有効であると考えられる。

次に、東京書籍です。1、目次に続いて、「これから1年間で学ぶこと」、次ページには「道徳の学習をするために」と題して、「気づく、考える、話し合う、ふりかえる、見つめる、生かす」が示され、児童にとって道徳の学習を進める過程が分かりやすい。これらを活用して、年度当初に各学年の道徳学習のオリエンテーションを行うことができる。2、問題解決学習を意識した内容が分かりやすく書かれている。中でも、1年生では発達段階を考慮して、「きをつけて」、「みんないっしょ」など問題を捉えやすいように、身近な生活場面が絵で示

されている。2年生では、「きいろいベンチ」、「おれたものさし」など生活場面における問題が捉えやすいように配慮されている。中学年になると行動範囲や人間関係にも広がりが出てくるので、3年「なかよしだから」、4年「お母さんの請求書」など様々な生活場面における問題を扱えるように配慮されている。3、多様な教材がバランスよく掲載されていて、児童が幅広く学ぶことができる。いじめ問題、命を大切にする、情報モラルなど、重要課題であり道徳の授業においても、大切に扱っていききたい教材である。4、6年「タマゾン川」は、多摩川の現状を考える教材であり、府中市の児童にとっては身近な問題を通して、自然環境の問題を考える機会になる教材である。5、「Dマーク」のついた教材は、QRコードやURLからアクセス可能であり、学校や家庭で利用できると感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私も2社推薦します。まず、日本文教出版です。理由としては、道徳の学び方というところで見開き2ページで説明してあり、初めて道徳の学習に入る1年生の児童もわかりやすいのかなと感じました。また、これから多様な国の方と接する機会が多くなっていくのかなというところでは、国際理解の教材が複数あるということは良いと感じました。あと、2年生の心のベンチでは、府中市のくらやみ祭の写真が掲載されていることなど、身近な題材が載っているところから、良いと思いました。

次に、光村図書です。こちらはオリンピック・パラリンピックを意識した人物が取り上げられていて取り組みやすいかなと思いました。また、1年生では、児童の生活実態にあわせて単元構成がされているかなと感じました。あとは、課題解決的な学習を行える教材があること、情報モラルやいじめに関する教材があり、話し合いがしやすいことも良いと感じました。さらに、ロープチャレンジは府中市内の小学校でも取り組んでいることなので、こちらも子どもたちが身近に感じられる内容かなと思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に、私の意見を申しあげます。私は1社、光村図書を推したいと思います。もし仮に国語と同じ教科書会社となると教科の独自性についての懸念も考えられますけれども、そのことに十分配慮した構成になっているなと感じました。QRコードについては各読み物資料に取り入れていて、他の教科のようにホームページから入って、該当項目へ移るよりも合理的な気がしました。それから、このQRコードを通してプロの朗読を聞くことができるということには大変感心しました。国語科ではないので、情感のこもったプロの朗読を聞いて、資料の読み取りが効果的に行われ、感性が揺さぶられるのではないかと思います。そして内容項目に沿って、児童1人1人が深く考え、意見を交わし、狙いに迫ることが期待できるのではないかと思います。

それから動画ですが、水が渡る橋、通潤橋では、動画によって橋を流れる大量の水と回りの人の大きさとの比較によって、スケールがダイナミックに把握できることには驚きました。また、私には夢があるという教材では、キング牧師の演説の動画と翻訳のテロップがありまして、これについては従来ですと、先生方が拡大コピーを黒板に貼ったり、演説のテープを用意したりするなどのことをしたわけですが、その負担が軽減され、英語等の他の教科との関連の指導が可能になると感じた次第です。

ほかにご意見やご質問等がございますか。

ここまでのご意見をまとめますと、少し意見が割れましたが、光村図書出版の評価が高い

ようです。採択候補は、光村図書出版の教科書でいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、協議（１）の教科用図書（小学校）の採択候補の選定については、国語は光村図書出版、書写は光村図書出版、社会は日本文教出版、地図は帝国書院、算数は学校図書、理科は東京書籍、生活は東京書籍、音楽は教育芸術社、図画工作は日本文教出版、家庭は開隆堂出版、保健は学研教育みらい、英語は光村図書出版、道徳は光村図書出版の教科書を選定します。

ただいまの協議をふまえて、次回の定例会までに熟考していただいた上で、お考えを述べていただき、最終決定いたしますので、お願いいたします。



◎教科用図書（中学校）の採択候補の選定について

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて、協議（２）につきまして、説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 続きまして、中学校用教科書についてご説明いたします。

要綱第４条第２号において、道徳に関しては平成３０年度に採択し、平成３１年度から使用しているものと同一の教科書を採択するものとしております。その他の種目に関しては、令和３年度から新学習指導要領が施行されるため、特段の必要性が認められない場合は、平成２７年度に採択し、平成２８年度から使用しているものと同一のものを採択するものとしております。中学校校長会を通し確認したところ、各中学校からは現行の教科書変更の申し出はなかったことをご報告いたします。

つきましては、要綱第４条第２号に則り、中学校用教科書の採択候補として、全種目において現行の教科書をあげさせていただきます。ご協議の程、よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。ただいまの説明についてご質問はございますか。

それでは、協議（２）の教科用図書（中学校）の採択候補の選定については、現行の教科書を選定します。



◎教科用図書（特別支援学級）の採択候補の選定について

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて、協議（３）につきまして、説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 最後に、特別支援学級用教科用図書についてご説明いたします。

特別支援学級の教科書におきましては、府中市の小中学校において採択されている「文部科学省の検定本」、「文部科学省発行の著作本」、「東京都教育委員会発行『特別支援教育教科書調査研究資料（学校教育法附則第９条第１項の規定による教科書（一般図書））』に掲載の図書」を採択候補としてあげます。なお、それ以外の一般図書については、各学級に確認したところ今回はございませんでしたので、併せてご報告いたします。

説明は以上です。ご協議の程、よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。ただいまの説明についてご質問はございますか。

それでは、協議（３）の教科用図書（特別支援学級）の採択候補の選定については、「文部

科学省の検定本」、「文部科学省発行の著作本」、「東京都教育委員会発行『特別支援教育教科書調査研究資料（学校教育法附則第9条の規定による教科書（一般図書））』に掲載の図書」を選定します。

本日の協議は以上となります。先ほど申しあげましたとおり、本日協議した内容を踏まえ、議案を作成し、次の定例会において審議・最終決定することといたします。

_____ ◇ _____

◎その他

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第4、その他でございますけれども、何かございますか。

それではこれで、令和元年第3回府中市教育委員会臨時会を閉会いたします。ありがとうございました。

_____ ◇ _____

午後3時51分閉会

以上、会議のてん末を記載してその相違ないことを証
するため、ここに署名する。

令和元年 12 月 19 日

府中市教育委員会教育長

浅沼 昭夫

府中市教育委員会委員

日野 佳昭